

おおぞら 議会だより

CONTENTS

大空町20年記念 女性模擬議会開催	2
女性模擬議会 一般質問	3
大空町民が参画する持続可能な 地域社会の実現に関する決議	9



臨時号

OZORA
GIKAI DAYORI

[発行日] 令和8年(2026年)1月15日



☆秋岡 房子 議員

☆大槻 晶子 議員

☆河西 かおり 議員

☆上林 葵 議員

☆栗原 典子 議員

☆佐藤 幸江 議員

☆佐藤 璃奈 議員

☆澤井 直美 議員

☆神野 里美 議員

☆田口 忍 議員

☆知花 明美 議員

1. 商工振興対策について
2. 老朽化施設建て替えに伴う既存施設の対応について

1. 今後の学校教育に関すること

1. 商店街活性化の取り組みについて
2. DX推進の取り組みについて

1. 野良猫対策について
2. 学校を越えて町とつながる大空高校の探究活動について

1. 子どもたちの非認知能力を育む教育について

1. 障がい児の取り組みについて
2. 身寄りのない高齢者の支援について

1. 公共交通（バス路線）について

1. ゴルフコースの存続について

1. 路上へのゴミポイ捨て対策について
2. 町民の心身における健康維持のための対策について

1. 防災に対する取り組みについて

1. 認知症の取り組みについて

商工振興対策について

問 今後の人口減少、車社会による経済活動の町外流出など、課題が山積している状況ですが、現在実施している事業を継続していく考えはあるか伺います。

町長 プレミアム商品券やクーポン券の発行など、町内の消費拡大につながる支援を行うほか、住宅リフォームに対する助成や起業・創業の支援、事業の維持・継続に係る補助制度を設け、また、運営資金の利子補給を実施するなど、事業者の支援と生活の安定、地域経済の循環を生み出す施策を展開しています。

また、人口減少、少子高齢化などに伴い、様々な分野で働き手・担い手の確保が大きな課題となっています。事業承継の支援サービスを行う企業と、商工会などを含めて連携協定を締結し、事業継続して引き継げるよう取り組んでいます。

問 町内の経済活動の活性化を目的にし

ている大空歌謡ショー。町外からも多くの来場者が訪れる人気の事業であり、毎回、ほぼ満席となっています。チケット交換条件が1人3万円以上の買物となっており、試算すると1,320万円の経済効果があります。今後も地域経済を活性化させる事業について、支援をお願いします。

町長 非常に経済効果が高いと認識しました。大空町商工会と対応を協議していきたいと思います。

老朽化施設建て替えに伴う既存施設の対応について

問 地域振興会館は老朽化が進み、今年の猛暑時には、館内の温度上昇により利用を控えざるを得ない状況が発生しました。利用者の健康や安全を守るためにも、エアコンの設置を必要と考えますが、既存施設のエアコン設置の検討状況や、今後の対応方針について伺います。

町長 現時点では約7割の公共施設にエアコンが設置されています。冷房設備が不足している公共施設においては、熱中症対策はもとより、快適に御利用頂くためにも、早期にエアコンを設置する必要があると認識しています。

今後の公共施設の在り方や、財政状況も含めて、全ての公共施設、全ての部屋にということではなく、必要性や優先順位も考慮しながら、エアコン設置を進めていきたいと考えています。

「大空町20年記念 女性模擬議会」開催

10月25日（土）、議会議事堂にて「大空町20年記念 女性模擬議会」を開催しました。

模擬議会では、11名の女性模擬議員から「一般質問」、「大空町民が参画する持続可能な地域社会の実現に関する決議」を行ないました。

原本議長あいさつ



大空町20年記念女性模擬議会の開会にあたりまして、ひと言、ご挨拶を申し上げます。
この度、私たち大空町議会主催によりまして、女性によります模擬議会を企画しましたところ、快くご賛同をいただき、過日12名の方に当選書の交付を行いました。
本日は、模擬議員の皆様にご出席をいただき、模擬議会が開催できますことに、心からお礼を申し上げますとともに、大変嬉しく感じております。この模擬議会は、地域の課題や社会問題に対して、女性の視点から、まちづくりについて提案をいただくことを目的とすると共に、大空町20年記念事業の一環として開催するものです。

今回は、11名の模擬議員の皆さんから大空町の町政運営についての貴重なご意見、またはご提言をいただけることを、大変楽しみにしております。

議会活動は、いろいろ多岐にわたりますが、その中でも一般質問は、松川町長に質問をして、まちづくりの提案や住民のみなさんの声を届けることにより、施策を展開していただくという活動です。あるいは、町長から素晴らしいまちづくりを進めるための政策を議案として議会に提案していただき、議会はその提案が住民のためになるか、財政運営上支障はないか、または少ない経費で大きな効果が出せるか、優先順位は妥当かなど、質疑をして町長に問います。そして議会の同意があれば、町長はそれを進めることになります。いわば町の意思を決定する最高機関が議会です。

今日は、この議場において、みなさんの通告をみますと、どの質問も素晴らしい内容であります。かなり緊張しておられることと思いますが、深呼吸をして気持ちを楽にし、失敗しても大丈夫です。自分の思っている事を、そのまま伝えていただければ、すばらしい一般質問になると思います。

最後に、理事者側におかれましては、質問に対して、分かり易く明快なご答弁を賜りますようお願い申し上げます。開会にあたりまして、主催者としての挨拶とさせていただきます。



野良猫対策について

問 町内では、飼い猫ではない猫にエサを与えることで、特定の場所に猫が集まり、道路に飛び出し、事故につながる事例があります。

無責任な餌やりを減らす啓発活動や里親募集、避妊・去勢手術を行う地域猫活動などが有効と考えます。町として、猫と共存するためにどのように進めていくか伺います。

町長 大空町では平成30年から令和2年の3年間、飼い犬・飼い猫の避妊・去勢手術に対して補助金を交付していましたが、終了しています。

現在は、野良猫がいる御近所に対し、チラシによる注意喚起にとどまっています。

問 避妊・去勢手術を、町で行うよう検討していただきたい。

町長 誰が猫を捕獲し、避妊・去勢手術を行うのかという課題があります。支援制度を設けることも考えられますが、課題が解決されない中で行うのは難しいと考えています。

学校を越えて町とつながる大空高校の探究活動について

問 大空高校は、探求学習を通じて町の課題解決に取り組んでいます。活動の多くが東藻琴地域に限られています。探求活動を町全体へ広げるために

はどうすれば良いとお考えですか。

教育長 徒歩、自転車を中心とした行動範囲となることから、東藻琴地域に探究活動が集中しています。積極的に地域へ出向き、様々な場面で地域の方々と交流する機会を増やすため、移動手段の確保等について検討したいと考えています。

問 住民と連帯して学習や活動を行うためにはどのような仕組みが必要とお考えですか。

教育長 自治会をはじめ、町内の各団体等にお声がけをして、協働して活動したい目的、趣旨をお伝えし、賛同頂き、相互理解による取り組みが必要になると思います。

問 芝桜公園の開園期間中に、公園内に大空高校のPRブースをつくり、活動を紹介することができるか伺います。

教育長 芝桜公園は、㈱東藻琴芝桜公園管理公社が管理・運営しています。大空高校の皆さんが希望すれば、教育委員会から管理公社に対して、PRブースの設置が可能か協議します。



上林 葵 議員

子どもたちの非認知能力を育む教育について

問 非認知能力とは、協働性、やり抜く力、好奇心や想像力など、知識や技能の習得だけでは測れない、子どもたちが将来、社会を生き抜くために欠かせない重要な力です。

第3次大空町教育推進計画に示されている協働性、自己肯定感、豊かな人間の育成など、非認知能力に関わる視点を、町として学校教育にどのように反映し、取り組んでいるのか伺います。

教育長 総合的な学習を活用した様々な体験学習、道徳の時間、学校行事等への参加、学級委員会活動、部活動やクラブ活動、町内事業所への職場体験や世代間交流など、第3次大空町教育推進計画に基づき、各小・中・高等学校において、計画的に様々なカリキュラムに取り組んでいます。



栗原 典子 議員

問 学校教育だけでなく、地域や家庭と

の連携を通じて非認知能力を育む仕組みをどのように構築していくのか伺います。

教育長 子どもたちが安心できる環境のもと、遊びや生活体験など、人との触れ合いや関わりを通じて育まれるため、家庭や地域コミュニティとの関わりが重要と考えています。

問 市民団体・サークルなど、地域の取り組みと各小・中学校の総合的な学習の時間や教育委員会が主催するイベントとの連携について伺います。

教育長 各学校とも限られたカリキュラム授業時数の中で、学習指導要領に沿って運営しておりますので、時数確保など、現状の対応は難しいですが、放課後や休日に、団体・サークル等自ら主催して取り組むことは、特段の制約等はないと考えます。

教育委員会主催の事業として、積極性や社会性を育むための体験学習の機会や次世代を担う人材育成を目的としたリーダースクール、地域の特徴を学ぶ機会や郷土愛の醸成を目的とした姉妹都市・稲城市、友好町・氷川町との教育交流・体験事業を開始しているほか、小学生の放課後や長期休業中の居場所づくりを目的とした放課後子ども教室推進事業、子どもワールド21を開設し、スポーツ活動、伝統・文化活動、ものづくり活動を実施しています。

今後の学校教育に関すること

問 大空町では人口流出が進み、児童・生徒数も減少しています。特に東藻琴小学校は、本年度の1年生が1桁となりました。今後、学級編制人数によっては、複式学級となりますか？その場合のメリット、デメリットについて伺います。

教育長 小学校では、原則として二つの学年を合わせて16人以下、1年生を含む場合は8人以下となる場合に、複式学級を編成することとされており、東藻琴地区では、令和2年度以降、出生数が1桁の状態が続いており、今後、複式学級が生じる見込みがある状況です。

複式学級のメリットは、異なる学年の児童が同じ教室で学ぶため、上級生が下級生の面倒を見たり、教え合う機会が多くなります。上級生が規範モデルになることで、助け合いの気持ちや学年を越えた交流、リーダーシップの育成に繋がると考えます。

デメリットは、一方の学年が先生から直接指導を受けている間、もう一方の学年は自習課題などに取り組む間接指導が行われ、間接指導の時間に課題を理解できない児童や、自力解決が難しい児童がいた場合に、適切な助言や指導ができない可能性が考えられます。また、教員は二つの学年分の教材研究や

授業準備が必要になるため、負担が大きくなることが想定されます。

問 現在、小・中学校が2校ずつありますが、児童・生徒数の減少が続いた場合、学校統合も考えられるか伺います。

教育長 今年度からそれぞれの地区ごとに小中一貫教育をスタートしました。児童生徒の育ちを9年間一貫した教育により進めることで、地域に根差した教育に取り組む体制を整えスタートしました。

学校の統合については、スクールバスでの移動時間や、道路事情を踏まえ、統合すると通学が困難な地域もあります。そうした地域の子どもたちは、朝早くから長時間バスでの通学を強いられることになり、生活や学びへの影響が大きく、慎重に検討する必要があります。

現時点では、学校統合の具体的な計画は持っていません。



大槻 晶子 議員

商店街活性化の取り組みについて

問 飲食店の閉店が相次ぎ、商店街の活気が失われていると感じています。町は事業継承の推進に取り組んでいます。店舗数の増加には繋がらないため、新規開業しやすい環境整備も重要です。

起業化支援事業補助金以外に、新規開業を推進する取り組みを行っているか伺います。

町長 ここ数年、女満別地区の飲食店が閉店していることを実感しています。

新たに事業を立ち上げる企業に対して、平成26年度に補助制度化し、令和6年度までの合計で39件支援し、このうち飲食業は21件です。このほか、民間事業者が飲食・サービス業などを行うため新規店舗を開く場合に支援制度もあります。

問 飲食店を新規開業するとき一般的には1,000万円程度かかると言われています。自分の店を持ちたいと思ってもリスクが大きいため、チャレンジしやすい環境を作ること



河西 かおり 議員

が大切だと思います。

空き家、空き店舗の活用など、商店街を活性化することについて、町長の考えを伺います。

町長 大空町では、移住・定住対策として、登録制度を設け、売買や改修などに係る費用の支援をし、物件を借受けて店舗を開く場合、所有者の意向確認の必要があり、双方の利用者がマッチングするための支援も行っています。

DX推進の取り組みについて

問 大空町におけるペーパーレスと脱ハンコの取り組み状況について伺います。

町長 令和8年度からスマートフォン等を活用し、庁舎の窓口で手続件数が多い業務からオンライン手続の推進、押印を求めている手続の見直しを、DX推進の第一歩にして、住民利便性の向上及び業務の効率化を継続して取り組みます。

問 紙やデジタル、利用者の選択肢を広げていただきたいと考えますが、町長の意見を伺います。

町長 全てのものをペーパーレス化していくのは難しいですが、様々な場面、状況に応じて使い分けをしていきたいと考えています。

ゴルフコースの存続について

問 ゴルフコースがメガソーラー業者によって再開発されようとしています。女満別ゴルフコースの状況について伺います。

町長 ゴルフコースのフェアウェイに太陽光発電設備を設置し、許認可を取得した後、早ければ令和10年に太陽光パネルの運転を開始したい。今年度限りでゴルフ場を閉鎖するという説明がありました。町としては断固反対すると相手方にはっきりと意思を伝えました。

問 3月定例会で大空町再生可能エネルギー発電施設の設置に関する条例制定が行われましたが、昨今、自然環境、動植物保護の観点から、メガソーラー開発について規制をする動きが起きていると報道されています。

大空町としても、これを機に無謀とも思える開発を抑制できる条例を考えていただきたいと思います。町長の考えを伺います。

町長 再生可能エネルギー発電施設の適正な設置と管理を目的とする、大空町再生可能エネルギー発電施設の設置に関する条例を本年4月1日より施行しています。地域の調和を図り、町民の生活環境や安全を守るために必要な事項を定めています。

この条例により、大空町は再生可能エネルギーの導入を進める一方で、地域の環境や町民の生活に配慮した適切な開発を促進しています。

また、国に対しては地域特性を踏まえた規制、誘導制度を法制化し、再生可能エネルギー導入の持続可能性と地域共生を確立していただくことを強く求めていきたいと考えています。



澤井直美 議員

路上へのゴミポイ捨て対策について

問 道の駅めまんべつでは、観光客に有料で可燃ごみ袋を買ってもらい回収していますが、年間利用者数について伺います。

町長 年間で200件ほどの利用があります。

問 コンビニ店舗に町として協力要請や処分料の補助をするなどをして、ごみ箱の使用再開を促すことができないか伺います。

町長 ごみ箱が撤去されている理由として、新型コロナウイルス感染拡大防止も理由の一つであると思いますが、利用者や観光客が置いていく大量のごみを分別する作業が、お店側にとって負担が大きいことも理由の一つではないかと思います。

問 ポイ捨てが犯罪であること、そして大空町は犯罪を見逃さないという意思表示をすることが、多少の抑止力になり得るのではと思います。町内のポイ捨て多発スポットを中心に、対策を取るよう検討願います。



神野里美 議員

町長 不法投棄の罰則は、5年以下の懲役または1,000万円以下の罰金、あるいはその両方が科せられます。

しかし、ポイ捨ては、所有者を特定することが非常に難しいのが現状です。町としては不

法投棄を未然に防ぐため、のぼり等による啓発活動や定期的にパトロールを実施していますが、解決には至っていません。こういったものが効果があるか、研究を重ねていきたいと考えています。

町民の心身における健康維持のための対策について

問 健康診断を進めるだけでは、町民の健康意識向上へのきっかけとしては足りないと思います。町として、他に対策をしているのか伺います。

町長 第三次の大空町健康増進計画において、生活習慣の改善、生活習慣病の予防、重症化予防などを課題に掲げ、健康づくりの支援や健康知識の普及啓発に取り組んでいます。ふれあいトークに保健師や栄養士が出席し、健康づくりについて啓発活動、健康についてのお悩みにお答えする、栄養・健康相談窓口を設置、禁煙治療を推進する助成事業などを実施しています。令和7年度からは血圧計購入費の助成を実施し、生活習慣の改善につながる取り組みを開始しています。

問 誰でも取り組みやすいのが、趣味を持つことなのではないでしょうか。大空町趣味活・推し活応援キャンペーンを実施し、大空町を「趣味活応援のまち」として推し進めるよう検討願います。

教育長 大空町内の団体サークルの幅を広げて同好会的な趣味・趣向が合う方が集まる情報発信の機会が必要です。

町民の日常生活を豊かにできる取り組みについて、検討したいと思います。

障がい児への取り組みについて

問 放課後等デイサービスを町内に開設することについて、進捗状況を伺います。

町長 町では、大空町社会福祉協議会に実施していただけるよう協力を要請し、令和7年度から人材を採用して開設準備をいただいています。

当初、大空高校女満別キャンパスの活用を検討しましたが、施設改修が高額となることから、施設の新設を含め検討すべきと判断しました。

しかし、利用希望児童数は42人に上り、このニーズには早急に対応する必要があるため、令和7年度中の実施を目指し、当面は女満別老人福祉センターを改修して実施したいと考えています。

利用定員については、発達支援事業及び放課後等デイサービスの利用事業を午前と午後で割り振り各10名として設定し、児童の状況から必要な回数を利用していただく想定です。

問 希望する児童は42人、定員10名では、十分に支援を受けられないのではないのでしょうか。定員以上となった場合の対応について伺います。

町長 開設に当たり最低基準の10名から始めるという考えです。児童の受入れ状況や職員の確保状況を踏まえて、運営しながら拡大を検討すべきであると考えています。

想定として、週1～2回、放課後等デイサービスに通所し、それ以外の日には児童クラブ利用を組み込み、指導方針を共有し、生活スキルの向上につなげることができる児童もいると考えています。



佐藤幸江 議員

身寄りのない高齢者の支援について

問 成年後見人制度について、どのような取り組みを行っているのか伺います。

町長 社会福祉協議会に成年後見支援センターを開設していただき、認知症、知的障害、精神障害などにより、判断能力が十分でない方及びその親族の方からの相談を受け、成年後見制度の利用支援を行っています。

問 市民後見人の育成も検討するべきではないのでしょうか。

町長 社会福祉協議会と連携しながら、市民後見人の育成、研修の機会を設けていく必要があるのではないかと考えています。

公共交通（バス路線）について

問 東藻琴から女満別までのバス路線が存在せず、住民の移動手段が限られている状況です。路線新設や代替交通手段の検討状況について伺います。

町長 大空町では、地域公共交通会議設置と協議に向けた準備を進めています。

地域公共交通会議は、町民、民間事業者、行政といった関係者が一丸となり、地域の公共交通の効果的な取り組みを協議する場です。地域の足をどのようにして守るのか、どのような交通手段があると便利か、人口減少が進んでも運行を維持できる公共交通について考えていきます。



佐藤璃奈 議員

問 高齢者や学生などの交通弱者の移動支援について、町としての取り組みを伺います。

町長 公共交通機関を単独で利用することが難しい方のために、NPO法人等有償で行う移動サービスとし

て、福祉有償運送サービス。買い物等の外出機会を支援するため、高齢者等移動支援事業として、福祉タクシー券、外出支援タクシー券を交付しています。

学生に対する支援については、東藻琴地区で暮らす生徒が、大空町外の高等学校に通学している生徒のいる世帯のバス利用に対し、通学費等を助成しています。

問 北竜町では、予約が入った場合に運行する交通サービスの取り組みが始まっています。このような地域の実情に応じた交通手段について伺います。

町長 北竜町では、出発地と目的地をつなぐ予約制のデマンド交通と、定時、定路線の地域公共交通の実証運行を開始したと報道されています。バス、ハイヤー、スクールバス等、現状の問題点を洗い出し、目標と課題を設定して実践するための、地域公共交通活性化協議会を大空町より一足先に令和2年4月設置しているようです。

大空高等学校の総合的な探究の時間の取り組みで、ライドシェアやもっと便利な公共交通といった、地域公共交通をテーマにした探求を行っており、町民の意見として参考とさせていただく機会が、今後あるのではないかと考えています。

大空町民が参画する持続可能な地域社会の実現に関する決議

我が国は今、急速な人口減少と少子高齢化に直面し、働き手の不足や地域コミュニティの衰退が深刻な課題となっています。さらに、働き方の多様化やデジタル化の進展、気候変動や災害対応など、社会の変化に迅速に対応することが求められています。

10月21日には、日本で初めてとなる女性の首相が誕生しました。長い歴史の中で新たな一歩が刻まれ、多様な視点が政治に生かされる時代への大きな流れを感じるとともに、今後の歩みに大きな期待が寄せられます。

こうした時代の中であって、大空町においても、性別、年齢、障がいの有無、立場の違いに関わらず、お互いの意見を尊重し、理解し合い、支え合いながらより良い地域を築いていくことが大切です。しかし現状では、地域活動や社会参加の機会が限られている方もいらっしゃることから、誰もが等しく地域づくりに関われる環境を整えなければならないと考えます。

そのため、子育てや介護への支援、柔軟な働き方の推進、ICTを活用した学びや働く機会の拡大、そして誰もが公正に評価される制度の確立などに取り組むことが求められています。

よって、わたしたちは、すべての大空町民が参画する持続可能な地域社会の実現を目指し、制度や環境の整備を進めるとともに、意識改革を地域全体で推進します。誰もが安心して暮らし、いきいきと活躍できるまちづくりを実現するため、課題解決に取り組むことを『大空町20年記念 女性模擬議会』において、決議します。



防災に対する取り組みについて

問 大空町メール配信サービスの登録状況について伺います。

町長 令和7年10月時点での登録者数は1,408件となっています。

問 再周知について、取り組んでいることはありますか。

町長 大空町防災マップに「そらナビアプリ」やメール配信サービスの登録用のQRコードを記載し、登録の呼びかけを行っています。

問 令和6年10月に、町民参加型の防災訓練が行われていましたが、こちらは今後も継続して行われるのか伺います。

町長 大空町では毎年、防災訓練を行っています。昨年の防災訓練については、地震想定総合訓練として自衛隊や消防団、赤十字奉仕団や自治会の協力を得て10月に開催しました。訓練の後、自衛隊の協力により、炊き出し訓練や気象台職員による講話、消防による消火訓練などを行いました。

令和7年度は、12月に職員を対象とした避難所開設訓練を行う予定です。

近年の大空町は、特段の大きな災害もなく、幸いなことですが、職員や関係機関等の災害対応に関するノウハウが蓄積されないという側面もあり、今後

も防災訓練を行うことは重要であると考えていますので、来年度以降も、関係機関や町民の皆様の参加もいただきながら、引き続き防災訓練を実施したいと考えています。

問 10月は雪が降っていない状況での防災訓練となり、避難しやすい状況であると思います。冬に地震が発生する可能性もあり、雪による災害などが発生すること考えられます。冬の時期の防災訓練の開催も考えていただければと思います。

町長 大空町で行ってきた訓練は、災害対策本部の運営や避難所開設訓練など、どの災害に対しても対応できる一般的な訓練が多く、具体的な災害の時期や種類など特定した内容となっていることが多い状況です。

冬の訓練については、寒さ対策、大雪対応などが想定されます。極寒の環境での避難、防寒対策のノウハウを実践的に学ぶことは重要だと考えています。今後、開催時期や訓練の内容も含め、検討します。



田口 忍 議員

認知症の取り組みについて

問 本町における認知症対策の取り組み、関係機関との連携について伺います。

町長 認知症を予防する観点の取り組みとして、脳刺激訓練教室を5か所、認知症カフェを3か所で実施しており、参加を通じて認知機能の維持・改善につなげ、認知症に関する相談先や医療機関などの情報を得る機会となるよう、定期的に開催しています。

このほか、認知症サポーター養成講座については、自治会等の地域単位や職場単位で開催し、講師を担うキャラバンメイトが中心となって、認知症の理解

者である認知症サポーターを増やし、認知症になっても安心して暮らしていける地域づくりを推進しています。

新たな取り組みとして、本年度、認知症サポーターの方々に構成するチームオレンジという組織を立ち上げ、

自治会や商店、医療機関などと連携し、認知症の方や御家族もチームの一員として互いに支え合うことができる仕組みをつくったところです。

町長 新たに発足したチームオレンジを契機として、キャラバンメイト同士の交流、育成をその中で行っていけるように、町の福祉部局、チームオレンジが連携しながら、取り組みを進めていきたいと考えています。

問 今後、認知症高齢者が地域で安心して暮らしていくために、家族や周りの住民の理解促進や、キャラバンメイトの活動を推進し、認知症サポーターの育成については必要不可欠であると思います。

町長 みんなが分担しながら、養成講座ができる、認知症の方を支え合うことができる体制を町としても協力して作っていききたいと思っています。



知花 明美 議員



大空町20年記念女性模
擬議会の閉会に当たり、
一言御挨拶申し上げます。

平成18年3月31日に東
藻琴村と女満別町が合併
し、大空町が誕生して20
年の節目を迎えました。
様々なイベントを町や関
係団体において実施してい
るところであります。
が、本日、開催されました
この女性模擬議会も、大
空町議会が検討を重ね、
主催頂いたものでありま
す。このような貴重な機
会を行政側に与えていた
だきましたことに、改めて
感謝申し上げます。

11名の議員から、様々
な視点からの一般質問を
頂戴いたしました。

特に今回は、大空高校
生2名にも、議員として
参加頂き、一般質問をし
ていただきました。さぞ、
緊張するかと思つたとこ

ろであります。堂々と
発言されている姿を見て、
大空高校の生徒はすばら
しいなと、改めて実感し
たところであります。

さて、今回の一般質問
に対する、私や教育長か
らの答弁をお聞きし、皆
様はどのように感じられ
たでしょうか。御質問に
対して、もっと前向きな
ポジティブな答弁が聞け
るのではないかと、そん
な期待をされていたかも
しれません。私も行政
側は、女性議員の皆さん
にも、また、大空町議会
議員の皆様にも、一般質
問での御要望に対しては、
その要望内容に公共性が
あり、町民の福祉向上に
寄与するものであれば、
可能な限りやります。前
向きに検討しますといっ
た御答弁をしたところ
であります。

ように振れば、お金が湧
いてくるのであれば良い
のですが、残念ながら、
そのような甘いものでは
ありません。毎年度の予
算を編成する際に、「入る
を量りて出ざるを制す」
という言葉があります。

この意味は、収入の額を
計算し、それに応じて支
出を計画するというもの
であります。何も難しい
ことではなく、皆さんの
家計のやりくりや、高校
生なら、お小遣いの使い
道と同じことです。氣に
入った服があっても、お
小遣いの範囲で買うこと
ができなければ、翌月の
お小遣いと合算して購入
したり、家計では、自家
用車が古くなり、車検を
機に新車を購入したくて
も、子どもの教育費が今
後かかってくるから、今
回は我慢しようといった
ことと、同じようなこと
を行政も予算という中で
行っております。

ただし、一方で、お金が、
予算がないから何もでき
ませんというのではなく、
今まさに、何を優先して
事業を行う必要があるの
か、そうした優先順位と
いうものを十二分に検討
を重ね、限られた財源の
中で苦心しながら、毎年
度予算を編成しています。
予算ももちろんでありま
すが、より良いまちづく
りを実現させていくため
には、やはり、町民皆様
の御理解と御協力がなく
てはなりません。今回の
女性模擬議会を契機とし
て、まちづくりに関心を
持っていただければと願
っています。

さらには、大空高校生
2人には、ぜひ、将来の
進路選択肢の中に、大空
町の職員として、町のため
町民のため、誇りを持つ
て仕事をする、頑張つて
みたいと思つていただけ
たら、こんなに嬉しいこ
とはありません。

皆様方には今後ともま
ちづくりに参画頂き、御
指導頂きますようお願い
申し上げます。大空町20年記
念女性模擬議会に対する
お礼とさせていただきます
です。

議会報告会・意見交流会を開催します。

大空町議会では、「議会報告会」と町民の皆様とともにまちづくりについて語り合う「意見交流会」を開催
します。どなたでも参加できますので、多くの皆さまのご来場をお待ちしています。

<女満別地区>

- 日時 1月24日(土) 午前10時00分～
- 場所 大空町役場1階1号会議室
- 担当 松岡議員、岩原議員、川村議員、鈴木議員、大泉議員

<東藻琴地区>

- 日時 1月24日(土) 午後2時00分～
- 場所 ふれあいセンターフロックス
- 担当 上地議員、後藤議員、森賀議員、福田議員、齋藤副議長

※原本議長は両会場に出席します。

- ①議会活動報告 常任委員会からの活動報告
- ②意見交流会

